

第5回教育委員会

平成29年2月21日
午前 10時
本庁舎屋上会議室

議案

報告第3号 大阪市立デザイン教育研究所の民営化に向けた検討の総括について

報告資料

大阪市立デザイン教育研究所の民営化に向けた検討の総括について

1. これまでの経過

- 同研究所は、工芸高校生の大学進学希望者や類似学科を設置する大学・専門学校等の増加によって、継続教育機関としての役割が低下していることや、生徒の市民率が5割を下回るなど受益と負担の観点から、本市が直営で運営していくうえで、課題があると指摘され、平成22年8月、本市事業仕分けの結果、民営化と判定
- 平成23年度、有識者を含めた「デザイン教育研究所あり方検討会議」において、運営のあり方について検討
- 平成25年6月、入学者の募集停止を発表するも、在校生や工芸高校在校生等に対して、丁寧な対応を求める市会質疑等を踏まえ、停止時期を繰り延べ
- 平成26年5月15日、同研究所の存続を求める陳情書が市会で採択
- 平成26年7月29日、教育委員会会議において、方針決定
- 平成27年度、マーケットサウンディングを実施するとともに、有識者を含めた「デザイン教育研究所あり方検討会議」において、民営化の可否について検討
- 平成28年4月、あり方検討会議から、提言
その提言を踏まえ、教育委員会会議において、方針決定
- 平成28年11月、公的支援にかかる法的リスク審査を踏まえた具体的な公募条件を提示したうえで、参入希望事前確認調査を実施

2. 民営化に向けた検討の総括

上記の経過のとおり、民間事業者としてのノウハウと創意工夫により、これまで培ってきた実績をさらに継承・発展させるべく、同研究所の民営化に向けての検討を進めてきた。

平成27年度以降、あり方検討会議（5回開催）においては、民営化など本市直営以外の運営形態について検討した結果、専修学校の形態を維持したうえでの民営化方策について検討を進め、提言を受けた。また、マーケットサウンディングの実施について、本市ホームページで公開するとともに、大阪府専修学校各種学校連合会、近畿圏内の学校法人等に広く周知した。その結果、7社の民間事業者にヒアリングを行うことができ、そのうち、参入を検討する2社の民間事業者に対して、マーケットサウンディングを継続的に行い、公募条件の検討を進めた。

その後、建物の使用貸借や移行時期における転籍生徒の授業差額負担など、民営化という方針の中で、**本市として可能な限りの公的支援を含む公募条件を提示し、「参入希望事前確認調査」を行ったが、新たに2社の民間事業者から問い合わせはあったものの、最終的に参入を希望する事業者はなかった。**

このように、公募に応じる民間事業者が現れないという状況であり、**民営化の実現は困難である**と言わざるを得ない。

(1) 参入希望がなかった主な原因について

- ① 同研究所の教育内容の質を維持した形で運営を行うためには、定員増や授業料の値上げなどを実施しても**民間の採算ベースに達せず、継続的な運営が困難**であった。
- ② 工芸高校に隣接し、高校と施設を共有する校舎であることなど、施設の使途や拡張性の点で制約があるという立地条件から、民間事業者にとって、**事業拡充を行うなど将来的な展開の見通しをたてることが難しかった。**
- ③ 産業デザイン分野に焦点をあてた、専門的かつ実践的なデザイン教育を実施する教員や外部講師の確保や、産学連携によるプロジェクト学習の取り組みに必要な連携企業の確保など、**教育体制を整備することが困難**であった。

(2) 今後の対応について

平成22年度の事業仕分けでの民営化判定後、同研究所の運営のあり方について検討し、民営化すると教育レベルの低下を招きかねないとの意見が出された。それに加えて、当時、大都市制度移行時に市立の高等学校が大阪府へ移管するとの方針が打ち出され、同研究所の募集停止を決定した。その後、受験生など関係者への配慮や市会質疑等を踏まえた結果、再度、民営化を含めた本市以外の運営による事業の継承について検討することとなったが、今回の総括のとおり、最終的には民営化は困難であるとの判断に至った。

この間、生徒募集停止や停止時期の変更等の方針決定など、受験生や在校生をはじめ、関係者の皆様に対して不安と心配をお掛けしたことを深く受け止めるべきと考えている。

同研究所は、これまでデザイン関連企業等に多くの人材を輩出するなど、産業界から一定の評価を得ている。教育委員会としては、同研究所のこれまで果たしてきた役割や教育活動を高く評価しているが、受験生のニーズがない中で永続的に運営を維持することは困難であることや、以前から受益と負担の適正化が指摘されていることから、今後の対応については、これらの課題を踏まえ、新たな方針を慎重に検討し結論を得たい。